



第56号

平成30年4月27日
書道研究 混陽会

〒524-0037
滋賀県守山市梅田町1-7
(守山駅西口から
北へ約100m)

URL: <http://www.kouyoukai-sho.com/>

編集人：改発蒼風



平成三十年代

書道研究・混陽会 活動方針

会長 安居暢翰

書の歴史と魅力を全身に感じ、心を豊かにし、情熱を持って腕前の上達・進化に繋げることを目標にしたいと考えます。

昨年は、定期講座・教養講座において各自の力を向上させ、混陽書道展・奏楽展・講座展において創作作品を発表し、読売書法展や日本書芸院展などの公募展活動に取り組み、好成績を得ることが出来ました。ただ、活動が多岐に渡り散漫になった面を踏まえ本年度は活動を整理・集約することといたします。今年の重点目標は初心に戻り①臨書の取り組みをより一層深めることと、②細字を鍛錬することに致します。

創作の勉強は杭迫先生の次の言葉を引用しますの
で参考にして下さい。

「一流の作品は『豊かで』『麗しく』『大胆で』『ユーモアが無くてはならない』」

1. 作品発表会

1-1 混陽書道展

今年の会場は「草津市立草津クレアホール」へ移ります。

会場の環境・雰囲気は良好ですが、床面積や壁面が少なくなり展示が制限されます。よって、展示方法を工夫することで力一杯の作品を発表することとします。

1-2 奏楽展

華道・華祐会と共催します「華と書のコラボレーション」の中で取り組み四月に開催します。混陽書道展や公募展では表現できない作品に挑戦し取り組みこととします。

2. 公募展

2-1 読売書法展

公募展の中心と位置づけ今年度も積極的に取り組んでいくこととします。

2-2 日本書芸院展

読売書法展、日展への実力養成の機会と位置づけ取り組んでいくこととします。

2-3 日展

取り組みは会員の随意とします。

2-4 地方展(県展)

活動の拠点である滋賀県の書文化の発展と向上を願う県展、市展等に取り組んでいくこととします。

2-5 シルバー展

生涯学習の一環との位置付けを明確にし、意欲的に取り組んでいくこととします。

2-6

勤労者美術展および道風臨書展への取り組み出品を希望する会員には全面的に支援することとします。

2-7

滋賀読売競書大会
「滋賀書作家協会」が主催する行事であり今年度も積極的に取り組んでいくこととします。

3. 講座関係

3-1 定期講座

① 古典講座、② 古筆講座、③ 調和体講座は基幹講座として継続します。

3-2

重点目標の取り組み・勉強会
① 臨書の取り組みをより一層深めることと、
② 細字を鍛錬することの取り組みは、発表方法を含め担当執行役員が起案し執行役員会で討議決定することとします。

4. 広報活動

4-1 機関紙「混陽」の発行

会員に対する①行事情報の伝達、②書の技術情報の紹介、③書に対する意識や関心を喚起する記事などを中心に構成し充実を図っていくこととします。

以上

平成30年度 役員

会長	安居 暢	翰 玲
師範	中川 翠	翠 玲
理事	伊部 芳	翠 玲
理事	中間 翠	泷 泉
参事	山本 華	青 玲
参事	山本 狩	遊 雪
参事	井古 圭	萌 玉
参事	久田 莊	香 雲
参事	下村 篤	雲 雪
副理事	堤 木	村 蒼
副理事	木村 富	田 月
副参事	富田 引	間 華
副参事	宮崎 宮	崎 舟
副参事	改発 改	発 風
副参事	日下部 日	部 雅
副参事	若江 翠	静 宵
副参事	木村 虹	翠 風
副参事	野口 翠	純 香
副参事	河野 山	田 陽
副参事	土田 翠	蒼 雪
副参事	山田 照	華 洲
副参事	織田 幸	峰 翰
副参事	井上 泉	岡 香
副参事	川田 祥	大 鶴
監事	古家 寺	井 妙
参与	属 古	岡 株
参与	吉 大	島 井
参与	大 寺	井 妙
参事	古 古	株 崇
参事	蜂 蜂	谷 煌
参事	柴 柴	田 翠
参事		湖 翠

二〇一七年十一月分 生徒部八段位合格者

久野部教室	中三	山本悠乃	硬筆
	中三	堤 結希	硬筆
	中三	田邊優花	硬筆
城北教室	中二	宮本萌生	毛筆
	中三	岸本 萌	毛筆
青山教室	中三	古家侑佳	毛筆
	中二	山田凜音	毛筆
湖城教室	中二	立川由華	硬筆
	中三	野口美咲	毛筆
彦根稻枝教室	中三	西山千晴	毛筆

おめでとうございます！



◎合格された方の中から、今回お二人の作文課題を掲載させていただきます。

◆私と習字 彦根稻枝教室 中三年 西山千晴
私は、幼稚園の頃に友達と一緒に習字を始めました。その時は、ただ文字を書いているといふような感覚だったと思います。しかし、続けているうちに級が上がるのが嬉しくなってきました。

最初とは違い、もっと綺麗な字を書いて上を目指したいと思うようになり、今まで頑張つて続けてきました。

「字めっちゃ上手やな！」「そんな綺麗に書いて羨ましい」そう言ってもらえる事が多くなって、習字をやつていて良かったと思つています。

途中で、なかなか昇段せずに投げ出したくなる事もありました。それでもお手本を見て、先生にアドバイスをもらつて何度も書いていきました。丁寧に細かい部分まで教えてくださるので、先生方には感謝したいです。

私の学校で、書道家の金澤翔子さんにお話が聞ける機会がありました。翔子さんの作品を見て、涙を流す方もおられると聞いて驚いたのを覚えています。その時、私も自分の文字で何かを伝えられるような字を書いてみたいと思いました。今の私は、お手本を見たままに書こうとして、硬い線になつている事もたくさんあると思います。先生にも、流れが大切と教わつたのもっともっと頑張りたいです。

段を上げる事はもちろん、自分らしい文字が書けるようになる事を目標にしたいと思つています。そのためにも、今よりも楽しんで練習に取り組みたいです。

◆私と習字 城北教室 中三年 岸本 萌

私が書道始めたのは、「習字、習ってみる？」と祖母に言われたのがきっかけです。当時、私は小学二年生で習字と言われてもあまりピンとこなかったのですが、先生の字がとても綺麗で「私もこんな字を書きたい」と思い、先生を目指して頑張りました。毎月、お手本が届くたびに「今月はここが難しいから気を付けよう」や「この部分のはらいは丁寧にゆっくり書こう」と意識して書くことで、昇段し、字が上手になっていくのを感じられてとても嬉しかったです。

また、たくさんの作品展での受賞や家族や親せきから、「字が上手だね」と褒められる様になり、それはとても嬉しく、私の大きな自信にもなりました。小学生の間は、友達に比べ自分には特技と呼べるものが無いと思つていましたが、今なら胸を張つて堂々と「私の特技は習字です」と言えます。それくらい私にとって習字はとても大事なものになつていると実感しています。

しかし、習字も楽しいことばかりではないという事も学びました。それは小学四年生の大事な作品を書いていた時です。その日は全く上手に書くことが出来ず、何枚書いても、「これだ」という作品が仕上がらず泣いてしまいました。先生も「疲れたのなら、今日は終わってもいいよ」と声をかけてくださいましたが、それでも良いものが書きたくて「もう一枚ください」と粘つて書き上げたことを覚えています。あの日の苦しさがあったから、学校での辛いことやどんなに嫌なことも、乗り越えることが出来ているんだと思います。

私にとって習字は、体の一部の様にとっても大事な存在です。この、習字で学んだ一つ一つの事を大事にして、これからの習字や高校生活などに活かしていきたいと思つています。また、先生の様に自分も誰かに字を教えられる様な人になりたいです。

生徒部八段位とは？

日本習字生徒部の最高位です。合格すると「特待生」として、成人対象の手本で学習出来ます。合格された多くの方が特待生として学習を続けています。

試験内容は、①実技試験 ②理論試験
③作文（題は『わたしと習字』）

講座発表会

二〇一八年一月十九日（金）から一月二十五日（木）まで、野洲図書館ギャラリーにて、古典・古筆・調和体、まほろばの四講座の一年間の成果を発表しました。



第六回 華と書のコラボレーション

（主催…池坊華佑会支部、書道研究混陽会）

四月十四日・十五日守山市民ホール展示室にて華と書の合同展を開催致しました。参加人数は二十五組五十人。統一テーマは「笑」。華と書二人一組となり各組のテーマを決めて作品作りを行いました。

教室展 久野部教室・蒼風教室



二〇一七年十二月八日～十四日 野洲図書館ギャラリーにて久野部教室、蒼風教室合同の教室展を開催致しました。

作品は、混陽書道展で発表した作品と、毎月の教室で取り組んでいる課題や、合同展に向けて制作した色紙、葉書、半切作品などバラエティーに富んだ作品を展示致しました。

期間中には、教室に通われている生徒さんや図書館を利用されるたくさんの方々にご覧いただくことが出来ました。



◆久野部教室が左記の通り変更になります。よろしくお願ひ致します。

「野洲駅前教室」

野洲市小篠原二二四二一三（駅前自治会館）
毎火曜日 午後四時から午後八時

受賞者報告

【第十回滋賀読売競書大会】（ ）内、学年

優秀団体賞 書道研究 混陽会
読売大賞 中間翠洗

第十回記念賞 藤江由奈（小三）
清水遥加（小二）
足立花音（高三）

金賞 土田純香
新屋咲希（小二） 大西 輝（小三）
加藤歩夢（小三） 龍後昊平（小五）
平井太喜（小六） 谷元優稀（中一）

◇滋賀読売競書大会は、四月二十八日（土）～三十日（月） 大津市歴史博物館にて全国シルバーク書道滋賀展と同時開催

【日本書芸院展】

特別賞 … 伊部芳翠 木村静宵
準特別賞 … 富田蒼月

特選 … 宮崎恵舟 井上照華
… 木村香雪 人部京翠
… 引間京華

… 日下部雅苑
… 橋本翠遊 内山暢聡
… 山川桐葉

一科員推薦賞 … 橋本翠遊 内山暢聡
二科員推薦賞 … 山川桐葉

◎中川翠玲先生が日本書芸院より審査員を委託されました

おめでとうございます！



「楽しく共に書きましよう」会の開催

今年度の活動方針にありますように①臨書の取り組みを一層深めること②細字を鍛錬することを目標として、右記二点を併せて月に一回程度不定期ではありますが「楽しく共に書きましよう」会を開催致します。細字につきましては、左記の日本の古典を中心に半紙に、また半切には中国の古典を書きたいと考えています。半切に書く古典についての課題は各自の自由としたいと思います。午前十時から午後四時まで、参加時間は自由、会場は守山教室で。細字、半切併せて約十人まで。第一回目は三月二十五日(日)に開催致しました。今後の予定は約一か月前に守山教室の白板に掲示致します。

対 象…混陽会員

細字課題…空海 風信帖

橘逸勢 伊都内親王願文

嵯峨天皇 光定戒牒

小野道風 屏風土代

藤原行成 白楽天詩巻

藤原佐理 離洛帖

日本習字原田観峰臨 蘭亭叙

智永 千字文

第三十九回 混陽書道展

今年の混陽書道展は、昨年の大津市歴史博物館から、会場を「草津市立草津クレアホール」へ移し開催いたします。会期は十月十二日(金)〜十四日(日)の三日間となっています。

昨年、軸表具を一新し今年も同様の表具で展示いたします。又、サイズが変更になりますが「一字書」や「全臨」にも従来通り取り組みます。昨年

より会場は手狭になります。年に一度の作品発表の機会です。会員の皆様の力溢れる作品を展示し盛り上げたいと思っております。

教養講座 (平成二十九年)

■篆書講座【十一月五日】(アンケートより)

*習ってみたかった篆書の基礎、基本を山本華泉先生に教えていただきとても勉強になりました。

*自分の落款を作る際の参考になりましたし、篆書の奥深さを感じることができました。

■書道史講座【十一月十二日】(アンケートより)

*少しずつ、味見しながら書道史を学べた気がした。*前回、書道史を受講したのですが、二度目でさらに理解できました。

■裏打ち講座【十一月二十六日】

講座では、半紙作品を裏打ちしていききました。先生が作業の手本を見せてくださってからの体験でした。実際の作業では糊の微妙な加減や板に作品を張り付ける際の空気の抜き方など、見るだけでは分からない加減を丁寧にご指導いただきながら体験することが出来ました。



↑ 篆刻講座



← 裏打ち講座

【平成30年度 年間行事予定】

月	日	曜日	内容	月	日	曜日	内容
5	12	土	執行役員会	9	8	土	執行役員会
	20	日	古典講座		9	日	混陽展 葉書回収
6	3	日	調和体講座		16	日	古典講座
	10~12	日~火	読売錬成会	17	月	混陽展 作品提出	
	17	日	古筆講座	10	7	日	調和体講座
7	8	日	混陽展 臨書添削会		11	木	混陽展 準備
	14	土	執行役員会		12~14	金~日	混陽展(14日撤収)
	15	日	古典講座		21	日	古筆講座
8	29	日	混陽展 臨書添削会	28	日	混陽展 清算締切	
	5	日	調和体講座	11	10	土	執行役員会
	10	金	混陽展 出品票提出		18	日	古典講座
	19	日	古筆講座	12	2	日	調和体講座
26	日	混陽展 臨書添削会	16		日	古筆講座	

【お知らせ】定期講座(古典講座・古筆講座)の会場が新しくなりました。よろしくお願ひ致します。

◆新会場…近江八幡市孫平治町一丁目一三―三(旧)デイサービスセンターおほりばた

【編集後記】今年最初の機関紙の完成です。寒さの厳しかった冬も終わり、新しい年度が始まりました。今年も頑張りましょう。(M)